地質学雑誌　第109巻　第3号（通巻1290号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成15年3月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.6 No.3 March 2003

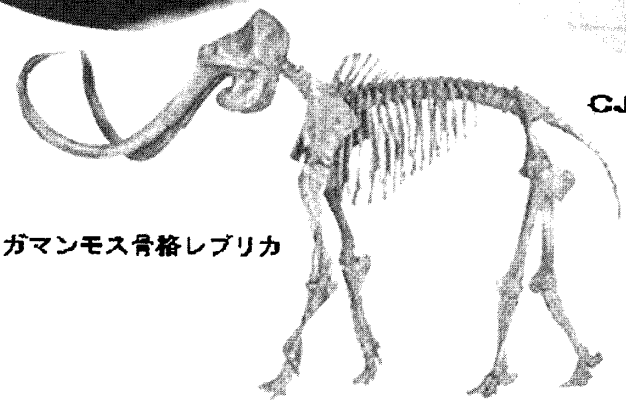
鉱物・古生物から分析用標準試料まで

ゼネラルサイエンスは幅広くご要望にお応え出来ます。

地球化学標準試料（GSJ）お取り扱いのお知らせ
旧地質調査所の地球化学標準試料(GSJ)全種類を弊社で委託販売する事になりました。

中国砂漠系標準試料(黄砂・黄土):販売のお知らせ
世界初の黄砂・黄土の元素分析標準試料です。
大気ｴｱﾛｿﾞﾙ・堆積土壌中の組成分析に使用出来ます。

CJ-1,2（２本組）



ケナガマンモス骨格レプリカ

☆ 弊社では、学校教育用・研究用及び博物館展示用の実物化石標本・模型、動物骨格標本・模型、恐竜骨格標本・模型、化石人類模型等世界中の標本・模型を取扱っております。
アメリカ自然史博物館・大英自然史博物館・ケニア国立博物館・国立南オーストラリア博物館等で出しておりますオフィシャルの模型も取扱っております。ご興味がございましたら是非ご一報下さい。弊社よりご要望のカタログをご送付させていただきます。尚、納入実績としましては国立科学博物館を初めとして、全国の博物館・大学に納入させていただいております。

☆ 分析用標準試料については、上記標準試料の他に、NIST、CANMET、SABSC(MINTEK)、BCR 等の鉱物・鉱石標準試料をはじめ、いろいろな標準試料を多数取り揃えております。

お問合わせ・資料ご請求は下記までお願い致します。

株式会社 ゼネラルサイエンス コーポレーション
〒107-0052
東京都港区赤坂 3-11-14 赤坂ﾍﾞﾙｺﾞﾋﾞﾙ 802
TEL.03(3583)0731　FAX.03(3584)6247
e-mail:gsc@shibayama.co.jp http://www.shibayama.co.jp

日本地質学会News

Vol.6 No.3　March 2003

The Gealogical Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　高橋正樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

2003年の会費払込について

案内 ……2-3
平成15年度技術士第二次試験の実施案内/日本堆積学会　第１回記念例会開催のご案内/国際シンポジウム　ZMPC 2003　International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals/第44回科学技術映像祭入選作品発表会/第3回残土石処分地・廃棄物最終処分場にかかわる地質汚染調査浄化技術の研修会

各賞・助成 ……3
財団法人　神奈川科学技術アカデミー研究助成募集/2003年度 地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集/平成15年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦のお知らせ

公募 ……3
産業技術総合研究所研究職員公募

CALENDAR ……4

紹介 …… 7
めざせ！　フィールドの達人　めざせフィールドの達人　編集委員会編（永田秀尚）……5

博物館紹介　野尻湖ナウマンゾウ博物館（近藤洋一）…6－7

列島各地から……8
三重県飯南郡飯高町月出の中央構造線露頭が国指定天然記念物になりました（諏訪兼位）

デルタプロジェクト始まる……8
IGCP-475 DeltaMAP プロジェクトへの招待（産総研　斎藤文紀）

EOS（アメリカ地球物理学連合発行のニュースレター）より
（立石雅昭）……9

委員会だより　女性科学者の未来を考える委員会　活動報告書　……10－11

支部コーナー……12
関東支部　活動報告ーシンポジウム「関東地方の地質」ほか/中部支部　2003年支部総会開催のご案内

院生コーナー……13－14
京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室地層学講座増田研究室（田村　亨）

執行委員会だより ……14
2003年度　第６回執行委員会

表紙紹介
オルドイニョ・レンガイ火山（沢田順弘） ……14

会費口座振替依頼書

2003年の会費払込について

2003年1月～12月の会費額は下記のとおりです．未納の方には督促請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．督促請求は5月末頃の予定です．

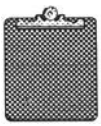
正会員	12,000円（	アイランドアーク購読料	8,000円）
〃　院生割引	8,000円（	〃	6,000円）
学生会員	5,000円（	〃	6,000円）

1.　次回自動引き落しについて（2003年およびそれ以前の会費が未入金の方対象）
次回，6月23日（月）に引き落としの予定です．まだ，会費を未入金の方で今後自動引き落としを希望する方は，「自動払込利用申込書」（p.○○掲載）をお送りください．5月16日（金）までに必着でお願いいたします．

2.　自動引き落とし新規の申込を受け付けています．登録口座変更の場合も改めて申込書をお送りください．
学会としては自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

広告取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します．

平成15年度技術士第二次試験の実施案内 -技術士法に基づく「技術士」になるための試験-

平成15年度技術士第二次試験は，2年間設けられていた旧制度の受験資格で受験できる経過措置の終了に伴い，技術士第一次試験に合格していることが必要になります．

申込書の配布と受付期間
配布：平成15年3月3日（月）～
受付：**平成15年4月1日（火）～11日（金）消印有効**

試験日：平成15年8月2日（土）～8日3日（日）
筆記試験
平成15年12月上旬～中旬　口頭試験

問い合わせ先
文部科学大臣指定機関　社団法人日本技術士会　技術士試験センター
〒105-0001　東京都港区虎ノ門4-1-20
電話　03-3459-1333　FAX03-3459-1334
http://www.engineer.or.jp

日本堆積学会 第1回記念例会開催のご案内

＜日時＞　**2003年4月26日（土）～28日（月）**
26日（土）シンポジウム－堆積学の新たな地平と展望－，懇親会
27日（日）個人講演，ポスター発表，総会議事
28日（月）個人講演，ポスター発表
＜会場＞　東京大学　農学部弥生講堂（弥生地区農学部正門入って右脇）
★詳細は以下のホームページを参照
（http://www.a.u-tokyo.ac.jp/index.html）

プログラム
＜記念シンポジウム＞　4月26日（土）
堆積学の新たな地平と展望
－New horizons and prospects of sedimentology in Japan
10:00-10:15　日本堆積学会長挨拶　牧野泰彦
10:15-11:00　日本における堆積学，その歴史的展開　岡田博有
11:00-11:45　ODPからIODPへ―堆積学の役割―
平　朝彦
昼休み　（11:45-12:50）
12:50-14:20　招待講演
12:50-13:35　Geodynamic analysis of the Mesozoic and Cenozoic basins of China for petroleum prospecting.　Li Sitian（中国地質大学）
13:35-14:20　Sedimentation and Holocence Evolution of macrotidal-flat depositional system in the southwestern coasts of Korean Peninsula.　Chun Seung Soo（韓国忠南国立大）
休憩　（14:20-14:30）
14:30-15:05　堆積相・シーケンス解析から統合的堆積盆解析へ：堆積環境・プロセス・分布解析手法の新たな展開　高野　修
15:05-15:40　現世堆積作用と堆積学，そして地球環境変動研究　斎藤文紀
15:40-16:15　有機地球化学と堆積学
鈴木徳行

休憩　（16:15-16:20）
16:20-17:00　炭酸塩堆積学からガスハイドレート科学へ：新しい環境変動モデルの構築　松本　良
17:00-17:40　テクトニクス，堆積作用と環境変動へのリンケージ
多田隆治
＜懇親会＞
18:00-20:00　東京大学農学部　弥生講堂ロビーおよび会議室
＜集会参加費＞
一般会員 3000円，学生・院生 2000円（講演要旨集代込み）
非会員　シンポジウムのみ　1000円（シンポジウム要旨込み）

国際シンポジウム ZMPC 2003

International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals

主催　ゼオライト学会　共催　日本地質学会ほか
会期　**2003年8月3日（日）～8月6日（水）**
会場　札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌）

特別講演
O. M. Yaghi (USA): Systematic design of pore size and functionality in isoreticular metal-organic frameworks and their application in methane and hydrogen storage.
J. Santamaria (Spain): Use of zeolite films in reaction and sensing applications.
A. Navrotsky (USA): Zeolites and mesoporous materials as nanomaterials: Energetic considerations.
J. Lercher (Germany): Designing zeolite properties for regioselective catalysis.
O. Terasaki (Japan): Nanostructured materials from porous crystals: Structural study.
J. F. Haw (USA): The mechanism of methanol to hydrocarbon catalysis.
招待講演　13件
一般講演　口頭71件，ポスター200件．

参加費　5月31日まで一般6万円，学生2万円，それ以後一般7万円，学生3万円．
申込方法
http://ac3.as.akita-u.ac.jp/ZMPC2003/参照
組織委員長　瀬川幸一（上智大学）・出版委員長　丹羽　幹（鳥取大学）
問い合わせ先　総務委員長　奥原敏夫（北大院地球環境）
〒060-0810札幌市北区北10条西5丁目，
TEL/FAX: 011-706-4513,
E-mail: ZMPC2003@ees.hokudai.ac.jp

第44回科学技術映像祭 入選作品発表会

貴重な日本の最新科学技術映像を紹介，製作会社，企業，テレビ局，研究機関等の出品作品から，内閣総理大臣賞，文部科学大臣賞受賞入選15作品を一挙公開．
日程：**2003年4月17(木)･18日(金)**（入場無料）
会場：科学技術館・サイエンスホール（千代田区北の丸公園2－1）
交通：地下鉄竹橋駅・九段下駅徒歩7分
［問］日本科学技術振興財団・振興部
TEL03-3212-2454
URL http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/s-m/index.htm

第3回残土石処分地・廃棄物最終処分場にかかわる地質汚染調査浄化技術の研修会 ―おもに重金属等を対象に―

2月15日に施行された“土壌汚染対策法”の実効ある運用には，地質汚染（土壌・地層汚染，地下水汚染，地下空気汚染）の調査浄化に関して，汚染サイトの特性を知る本当の技術力が求められます．汚染サイトの地質特性の重要性を認識しないにわか技術による調査や浄化対策が，汚染を拡大してしまった深刻な事例は各地で数多く埋もれています．

長年の研究成果と現場実績に裏打ちされた当NPO法人が認証する「地質汚染診断士」は，この分野ではわが国でもっとも信頼と権威ある資格として関係方面から大きな期待が寄せられています．確かな技術力修得の機会として，おもに重金属汚染を対象とした標記の技術研修会を開催いたします．受講ご希望の方はメール・FAXにて速やかにお申し込み下さい．

NPO法人　日本地質汚染審査機構（旧　売

買対象地地質汚染調査浄化研究会）
理事長　楡井　久

記
日時：**5月28日(水)～31日(土)**
主催：NPO法人　日本地質汚染審査機構
共催：茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター　　日本地質学会環境地質研究委員会
協賛：千葉県環境生活部　茨城県生活環境部（交渉中）　潮来市
会場：主会場　潮来ホテル(JR潮来駅前)・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター
副会場　佐原市残土石置場サイト
会費：非会員70,000円（宿泊費・全食費・懇親会費を含む）
会員65,000円
定員：50名（定員に成り次第閉めきります）
プログラム詳細は，
http://homepage1.nifty.com/npo-geopol/をご参照下さい．

申込・問い合わせ先
NPO法人　日本地質汚染審査機構事務局
Tel：03-5655-6201　Fax：03-5655-6202
E-mail：npo-geopolhq@mbd.nifty.com（事務局専用）

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行委員会までお申し込み下さい．

平成15年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦のお知らせ

財団法人東レ科学振興会より例年通り以下の推薦がありましたので，お知らせいたします．

1.　東レ科学技術賞
(1) 候補者の対象……貴学協会に関する分野で，下記に該当するもの
　(1) 学術上の業績が顕著なもの
　(2) 学術上重要な発見をしたもの
　(3) 重要な発明をして，その効果が大きいもの
　(4) 技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献したもの
(2) 科学技術賞……2件前後．1件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円
(3) 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
(4) 推薦締切期日……**平成15年10月10日(水)弊会必着**

2.　東レ科学技術研究助成
(1) 候補者の対象……貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し，今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的，萌芽的研究を活発に行っている若手研究者
(2) 研究助成金……総額1億3千万円．1件3千万円程度まで 10件程度．
(3) 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
(4) 推薦締切期日……**平成15年10月10日(水)弊会必着**

＊各推薦書用紙は，ホームページからもダウンロードできます．（平成１5年6月中旬から可）
URL：http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html

2003年度 地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集

2003年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します．

学会としてのご推薦または，個人会員からのご推薦のいずれからでもお受けします．学会員へのお知らせをよろしくお願いします．下記の要領でご応募下さい．応募用紙などは学会事務局宛て別途送付してあります．

1.　三宅賞
対　　象：地球化学に顕著な業績をおさめた研究者
表彰内容：賞状，副賞として賞金30万円，毎年1件（1名）
2.　奨励賞
対　　象：推薦締切日に35才以下で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者
表彰内容：1件10万円，毎年1件（1名）
3.　応募方法：所定の用紙に略歴，研究業績，推薦理由などを記入し，下記のあて先へご送付下さい．
4.　締切日：**2003年8月31日(日)**
5.　応募先：地球化学研究協会
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北4-29-2-217電話　03-3330-2455　（FAX兼用）
なお，応募用紙は，t-sagi@ka5.koalanet.ne. jp（鷺猛）宛てご請求頂ければ送付いたします．

財団法人　神奈川科学技術アカデミー研究助成募集

本助成制度は，意欲ある若手研究者が自発的に計画する．神奈川県民及び神奈川県内産業への喜代が期待される先端科学技術分野の創造的基礎研究に対して助成を行い，地域の創造的，先駆的な研究の発掘，育成に貢献する事を目的とします．

助成対象者：神奈川県内在勤または在住の若手研究者（概ね40才以下）で，勤務先の承諾を得られる方．（県外の方は応募できません，ご注意下さい）

申請書提出〆切：平成15年4月10日（木）必着

申請方法等詳細は下記までお問い合わせ下さい．
財団法人　神奈川県科学技術アカデミー教育交流部交流普及課
〒213-0012　神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP西棟6階
電話　044-819-2032　FAX044-819-2097

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

産業技術総合研究所研究職員公募

産業技術総合研究所では，広く人材を求めるため研究職員の新規採用を公募しています．詳細は当所ホームページをご覧ください．
研究分野：計測・標準，地質・海洋，ライフサイエンス，情報・通信，環境・エネルギー，ナノテク・材料・製造，計測・標準，地質・海洋の各分野．

照会先　　独立行政法人産業技術総合研究所人事室任用担当
TEL：0298-61-2016　E-mail：j-ninyou1@m.aist.go.jp
ホームページ： http://www.aist.go.jp/aist_j/employment/employment.html

CALENDAR

2003.4〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

4月　April

○第2回活断層研究センター研究発表会－活断層評価手法の高度化にむけて－
4月18日(金)
場所：江戸川区総合区民ホール
（東京都江戸川区）
http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html

○日本堆積学会第１回記念例会
4月26日(土)〜28日(月)
場所：東京大学　農学部弥生講堂
26日：シンポジウム－堆積学の新たな地平と展望（仮題），懇親会
27日・28日：総会議事･個人講演会･ポスター発表

5月　May

○地球惑星科学関連学会2003年合同大会
5月26日(月)〜29日(木)
会場：幕張メッセ国際会議場（全館）
http://epsu.jp/jmoo2003/

○第3回残土石処分地・廃棄物最終処分場にかかわる地質汚染調査浄化技術の研修会
５月28日(水)〜31日(土)
会場：主会場　潮来ホテル・茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター
http://homepage1.nifty.com/npo-geopol

6月　June

☆日本地質学会中部支部年会
6月14日(土)〜15日(日)　総会・シンポジウム・巡検
場所：岐阜大学柳戸キャンパス
問い合わせ：中部支部事務局　竹内　誠
TEL：052-789-2525
E-mail:takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp
http://www.geosociety.jp/shibu/chubu.html

○日本古生物学会2003年年会総会
６月下旬
会場：静岡大学理学部
シンポジウム「生物多様性を古生物学から考える」
http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp/palaeont/

○日本情報地質学会
6月26日(木)〜28日(土)
総会・講演会・巡検（Geoinforum2003）
場所：室蘭工業大学
office@jsgi.org
http://www.jsgi.org/

7月　July

○2003年度「青少年のための科学の祭典」全国大会
7月24日(木)〜28日(月)（予定）
場所：科学技術館　一階催事場（千代田区北の丸公園）
http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/ysf/

8月　August

○平成15年度全国地学教育研究大会･日本地学教育学会第57回全国大会
８月１日(金)〜８月４日(月)
会場：上越教育大学講義棟
http://www.juen.ac.jp/gakkai/geo_joetsu/

○地学団体研究会第57回総会
8月8日(金)〜10日(日)
会場：新潟大学五十嵐キャンパス
http://wwwsoc.nii.ac.jp/agcj/index.html

○日本第四紀学会2003年度大阪大会
8月29日(金)〜31日(日)
場所：大阪市立自然史博物館
http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/QR2home.htm

9月　September

○第５回ハットンシンポジウム
9月2日(火)〜6日(土)
会場：愛知大学（豊橋市町畑町1-1）
http://www.gsj.jp/Info/event/hutton/（official Web）.
http://www.bunbun.ne.jp/~hutton/index.html（Japanese）

○第13回Goldschmidt国際会議
9月7日(日)〜12日(金)
会場：岡山県倉敷市
http://www.ics-inc.so.jp/gold2003/

○2003地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展
9月10日(水)〜12日(金)
場所　有明・東京ビックサイト

☆日本地質学会第110年年会・総会（静岡大会）
9月19日(金)〜21日(日)
会場：静岡大学
http://www.geosociety.jp

10月　October

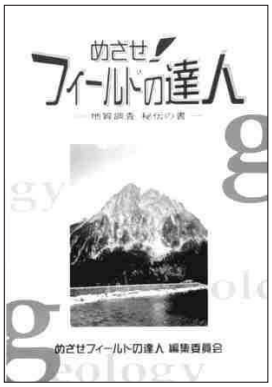
○日本火山学会秋季大会
10月11日〜13日
場所　九州大学箱崎キャンパス
野外討論会は：松浦玄武岩類（13日〜14日）
http://hakone.eri.u-tokyo.ac.jp/kazan/jishome/VSJNews.html

○日本地震学会秋季大会
10月6日〜8日
場所　京都国際会館
http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj/ssjinfo/ssjinfo.html

紹　介

めざせ！　フィールドの達人
－地質調査　秘伝の書－

めざせフィールドの達人
編集委員会　編



（フィールドの達人刊行会，2003年発行，A5版，232頁，定価2,000円）

有益でおもしろい本が出たので，同じコンサルタントを生業とする地質屋として学会の幅広い層にご紹介したい．

本書は，ダムにかかわる地質技術のノウ・ハウ集とでもいう性格のものである．101の項目に分けて記述されている内容は調査計画（「調査はオーソドックスに，効率的にすすめる」，項目を例示する．以下同じ）・水理地質（「地下水位線はどう描く？」）・断層などの劣化帯（「断層をどのように表示するか？」）・ボーリング（「ボーリングコアの整理」）・試験（「生データを大切に」）・斜面（「法面変状，まずやるべきことは何か？」）・材料（「注意しよう，メランジュ地帯の原石山調査」），そしてコンサルタントの心得（「耳学問だけではダメ！」）などダム地質全般にわたっているが，特に踏査関係の項目が，水理地質や断層調査関係も含めれば全体の約３分の１を占めている．表題通りフィールドワークのヒントが集められたものであるといえる．たとえば「地形図の精度を見極めよ」「斜面は尾根線まで登れ」「地質図は変わる」といった，従来の教科書にはほとんど載っていない，しかし技術的には重要な項目がならんでいる．随所に失敗談も散りばめられており，これらも貴重な体験として読むことができるとともに，通りいっぺんの退屈な記述になることを防いでいる．各項目はこの紹介文より少し長い程度にまとめられている．それぞれのタイトルはすでに示したように具体的でわかりやすいが，さらにそれぞれにいくつかのキーワードが付されており，巻末の索引によって自分の興味があるキーワードを探して読むこともできる．また図や参考文献も適宜示されており，より深い理解に役立つだろう．

一読して，私が日頃若手に言っているのと同じようなことが多いのに驚いた（一部に異論はあるが）．つまりこの本は，そろそろ足元がアヤシクなってきたり，ネクタイを締めた仕事に忙しくなりだした面々の昔話に近いところがある．この手の話は古来酒でも飲みながら旅館の部屋で語られるものなのだが，最近は気質の変化か多忙のせいか，そういうチャンスも少なくなってきた．技術の継承はどこの世界でも悩みのタネであるが，特にフィールド技術については深刻である（「山を歩ける人」「山を歩いて地質図を作れる人」「山を歩いて土木地質図を作れる人」はそれぞれ違う）．この意味で時宜を得た出版である．

執筆者はコンサルタントに所属する経験豊かな面々である．もともとダム地質の勉強会を自主的に開いていたグループの有志が集まったものなので，ダムの地質調査にまつわる話題が主であるが，それ以外の分野も含めて30歳代くらいまでの若手コンサル地質屋には，自分の経験に照らして読めば役に立つだろう．もちろん読むだけでは身につかないのがフィールドワークの知恵である．この本を手がかりに早く自分のスタイルを確立していただきたいという意味でお薦めする．2,000円は手の出ない値段ではないし，勉強には自腹を切る覚悟がいるものだ．

学術書ではないので気楽に読めるけれど，実は興味ある研究成果につながりそうな話，あるいは技術上の重要な指針につながりそうな話もある．たとえば岩盤内の水の挙動についてである．40歳代以上の経験豊かな技術者や，大学で応用地質を研究している方には，このような芽を伸ばす立場で読んでいただきたい．そして芽を一つでも花にしたいものだ．

就職させる学生を持つ教官の方々と学生のみなさんも，コンサルタントの世界ではこんなことをやっているのか，ということを知る意味で目を通していただければ幸いである．自分たちが苦労して描いた地質図の当否が白日の下にされてしまう恐ろしさや責任（経済性や，ときには人命までもかかわる）と醍醐味は十分伝わるものと信じている．

多くは会員外だろうが，クライアントとなる方々にも是非読んでいただきたい．エキスパートが山を歩けばこれだけのことがわかるのである．地表踏査が軽視される傾向は，金がつかない→サービスで歩かざるを得ない→安い金で「山を歩ける」だけの人に外注するか短い日数で調査を切り上げる→良い成果が生まれない→踏査は役に立たないようにみえる，という悪循環によるものだと考えているが，この流れを断ち切って，正当な評価と対価を与えていただくために．

この本の執筆者の多くを私は存じ上げており，自費出版の本書をまとめられる苦労も伝え聞いているため，ちょっと文句が言いづらい．また気軽に読んでいただきたいのであまり目くじらたてる気はないが，敢えて２，３指摘しておく．

「用語は定義を正確に」などという項がありながらそうでもない記述がまれに出現する．たとえば付加体（しばしば付加帯と書かれている）=メランジュではない．岩石と鉱物，素材としての岩石と地層との混同などは，ベテランでも犯しやすい誤りである（さてどこでしょう？）．またちょっと日本語になっていない箇所もある．ところどころに残る誤字などについては，増刷される際に考慮されたい．さらに，冒頭8ページにわたって貴重な写真・図面がカラーで掲載されているにもかかわらず，これらが本文と十分リンクしていないのは残念である．

時代の流れは「脱ダム」である．しかし本書に述べられているようなダムの調査で培われた地質技術は，防災・環境・廃棄物処分などのさまざまな分野に生かしてゆくことができるだろう．今後，「地すべり踏査編」「環境調査フィールドワーク編」「報告書執筆編」などなどより広範な技術分野での続編を期待したい．自分たちの宣伝も少しさせてもらうと，「ボーリングコアの観察」については私たちがまとめたものがある（日本応用地質学会北海道支部，1995）．

本書の入手希望は，同書刊行会　武田和久氏 **fieldmaster@geologist-jp.net**まで．

（永田秀尚）

野尻湖ナウマンゾウ博物館

Nojiriko Nauman`s elephant Museum

学芸員　**近藤洋一**

■野尻湖発掘と博物館

1948年，野尻湖畔の旅館のご主人が，野尻湖底からナウマンゾウの臼歯化石をみつけました．この地域の地質調査を行っていた研究グループが，ナウマンゾウ化石がどの地層から産出したものかを湖畔で議論していたときに「議論ばかりしていないで，まず掘ってみよう」という提案がされました．この提案によって，学校の先生や生徒など多くの方々に呼びかけがあり，1962年第１次野尻湖発掘が行われたのです．最終日のまとめの会で，発掘をおこなった調査団と地元信濃町の関係者との間で，将来，十分な保管施設のもとで現地に保存したいとの約束がされ，野尻湖の博物館構想がスタートしました．その後の博物館建設までの道のりはけっして平坦ではありませんでしたが，野尻湖発掘調査団では発掘をとおした地道な地元住民との交流を親密にするとともに，自前で野尻湖発掘展を各地で行い野尻湖発掘の成果を普及する解説書をつくるなど住民の理解をふかめる活動を行ってきました．1981年に信濃町として博物館を建設する方向が表明され，1982年に博物館建設準備室が発足し，具体的な基本構想が検討され，1984年7月に発掘地に近い場所に野尻湖博物館として開館しました．「地元に博物館を」という構想がだされてから22年の歳月がたっていました．

■基本構想

野尻湖博物館（旧名称）の基本的性格は下記のようにまとめられています．

（1）専門博物館

野尻湖から発掘された化石・遺物を中心に野尻湖と周辺地域の地質・化石・遺物などの資料やそれらに関連した記録・文献などの二次資料を保管・展示し，それらの資料をもとに研究・教育活動をおこなう「氷河時代の自然と旧石器時代の人類」に関する専門博物館である．

（2）地域博物館

野尻湖を中心に飯綱山・黒姫山・妙高山および斑尾山を含めた北信濃を主なフィールドとする地域博物館である．

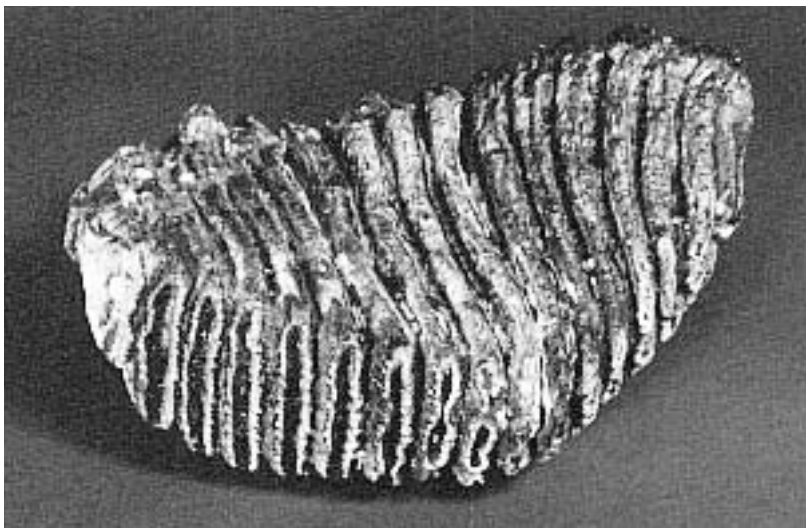
野尻湖発掘に関するすべての資料の収集・保管，展示，普及活動が基本ですが，それ以上に地域の博物館であることがたいへん重要です．地域住民から「おらほの博物館（自分たちの博物館という意味の方言）」という気持ちがわいてくるような博物館活動でないと，生き生きした活動はできないと考えています．野尻湖発掘調査団がめざした博物館構想はまさにこのような地域に根ざした博物館であり，そのための日常活動に力をいれています．

■常設展示

常設展示室は，320m²あり，大きく４つのコーナーにわかれています．

A．ナウマンゾウと野尻湖人

ナウマンゾウとオオツノジカの実物大復元像と旧石器人類（野尻湖人）の道具や周辺地域の自然環境を復元したジオラマを展示しています．この復元像は，研究者による古生物学的資料と芸術家による感性によって創作されたもので，来館者は迫力あるナウマンゾウやオオツノジ



アケボノゾウの実物標本の展示

アケボノゾウの復元骨格

カの復元像を見ることができます．

ナウマンゾウの骨格模型は，完成しておりません．なぜなら，野尻湖で産出した化石だけで，野尻湖のマウナンゾウを復原することをめざしているからです．発掘するたびに資料が増えていき，少しづつですが，展示内容も変わっています．これも野尻湖発掘が継続して行われているからできることで，最新の発掘の成果をみなさんにみていただけるよう，心がけています．

また，このコーナーでは野尻湖文化を代表する日本最古の骨製スクレイパーなどの骨器も見所のひとつです．

B．野尻湖9万年の歴史

野尻湖がせき止めによって形成され，その後構造運動によって現在の姿になるまでの歴史を，植物化石や昆虫化石などから解説しています．また，ナウマンゾウの時代にいっしょにいた動物化石や共伴する野尻湖文化の石器・骨器などを展示し，狩り場の遺跡と考えている証拠を展示しています．野尻湖周辺には後期旧石器時代の遺跡も多くあり，ナウマンゾウがいなくなった時代，そして現在の自然環境も紹介しています．

ここのコーナーは第11次発掘で確認されたナウマンゾウの足跡化石のレプリカを展示し，いきいきとしたナウマンゾウの生態にせまる展示が可能となりました．

C．楽しい野尻湖発掘

野尻湖発掘の歴史を紹介し，楽しい発掘の雰囲気がわかる展示をしています．あなたもこの発掘に参加してみませんか，という呼びかけができるものこの博物館ならではのユニークな点です．

D．体験コーナー

本物のナウマンゾウの臼歯化石がさわれるコーナーが好評です．マンモスゾウの臼歯と触り比べてみて下さい．

■野尻湖発掘の拠点としての博物館

2002年から野尻湖発掘調査団の事務局が，信州大学から野尻湖ナウマンゾウ博物館に移転しました．

野尻湖発掘はこれからも続きます．野尻湖人の核心にせまった資料の発見は，これからの課題として残されています．だからこそ，未完成の博物館として，今後も全国の「野尻湖友の会」のみなさんとともに，氷河時代の人類と自然環境の歴史の解明をしていく研究拠点として，この博物館は，ますますその役割が大きくなっていくと思われます．

■野尻湖まるごと博物館

地域の自然と歴史について，その場にいって見たりさわったり，体験していただけるのが，地域博物館のいちばんの強みです．そのために，自然観察会や石器づくり，化石採集，歴史散歩など多彩な行事を行っています．また，夏休みには，ミニ講座を開催し，石器づくり，昆虫化石さがし，火山灰の鉱物しらべなど，氷河時代の人類と自然を調べるための体験講座を，毎日メニューをかえて入館者向けに開催しています．たいへん好評でこの講座に毎年参加する方も多くなっています．

■利用案内

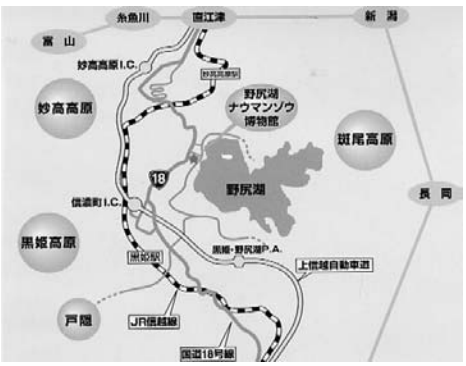
開館期間　3月20日～11月30日まで（冬期もウィークデーなら見学できます）
開館時間　午前９時～午後５時まで
休館日　　5, 6, 9, 10, 11月の末日（ただしその日が日曜，祝日の場合は翌日）
入館料

個人	一般	500円
	小学生・中学生	300円
団体	一般	450円
	高校生	350円
	小学生・中学生	260円

■交通案内

○JR信越線「黒姫駅」から野尻湖行きのバスに乗って，終点で下車．徒歩３分
○車では　上信越自動車道「信濃町インター」から国道18号線で野尻湖へ．
野尻仲町の信号を右折，120mほどいったところを再度右折してください．
ホームページには楽しい野尻湖発掘の様子を紹介しておりますので，ごらんください．
URL http://www.avis.ne.jp/~nojiriko/
E-mail nojiriko@avis.ne.jp

お知らせ
第15次野尻湖発掘
期間：**3月21日(金)～31日(月)**
皆様是非見学においでください．
詳細は野尻湖発掘調査団HP
http://nojiriko.pos.to/まで．



列島各地から

列島各地から情報発信をめざし，各地の会員の方からお寄せいただいた地球科学に関連したいろいろな記事を掲載したコーナーです．

三重県飯南郡飯高町月出の中央構造線露頭が国指定天然記念物になりました．

諏訪兼位（長野）

紀伊半島中部，三重県飯高町月出ワサビ谷に中央構造線の大露頭があることは，1997年11月の地質学雑誌第103巻第11号巻頭のグラビアで報告しました（写真）．1999年10月日本地質学会年会が名古屋大学で開かれた折，10月12，13の両日，学会巡検が行なわれました．その後，この大露頭は三重県指定天然記念物「中央構造線月出露頭」となりました．そして，2002年12月19日付の告示によって国指定天然記念物に正式に指定され，名称も「月出の中央構造線」となりました．

飯高町ではパンフレットの作成や記念学習会の開催などを当面考えているようです．

地質学会会員の皆さんが，積極的に見学巡検されることを切望します．

引用

諏訪兼位ほか, 1997, 紀伊半島中部，中央構造線の大露頭：月出露頭（三重県飯南郡飯高町月出ワサビ谷）．地質雑，**103**，口絵

デルタプロジェクト始まる：IGCP-475 DeltaMAP プロジェクトへの招待

アジア太平洋地域におけるデルタを対象とした新しいIGCPプロジェクトが今年から開始されます．同プロジェクトは，米国ニューヨーク州立大学のSteven Goodbred氏と筆者によって提案されたプロジェクトで，正式名称は，Deltas in the Monsoon Asia-Pacific region (DeltaMAP): Late Quaternary Development and Recent Changes Due to Natural and Human Influences，過去約５万年間を対象として，デルタの変遷，堆積作用，人間活動の影響の解明を主目的にしています． 2003年から2007年までの５ケ年間のプロジェクトで，第１回の年会は，2004年１月14～16日にタイで行われる第５回アジア海洋地質会議の直後に同じくタイで行われることが決まっています．

アジアには世界で最も多くの大規模デルタが存在します．これらの大河川とオセアニアを含めた島嶼の河川とを合わせると，同地域の堆積物の輸送量は世界の陸から海に供給される土砂量の約7－8割に達します．つまり地球上における現在の堆積中心はアジア・オセアニアにあり，地球規模の物質循環において最も重要な地域といえます．またシーケンス層序学においても，大規模デルタは，高海水準期のデルタの研究に対して基礎的な知識を提供し，島嶼の急流河川によって形成されたデルタと狭い陸棚は，低海水準期の陸棚縁のデルタに最も近い現在の堆積環境といえることから，当時の環境解析に基礎的な情報をも与えてくれます．1996年から米国を中心として地層形成研究（STRATAFORM project）が行われ，現在の堆積作用や地層形成研究を過去の地層につなぐ研究が行われています．この研究計画は，現在ヨーロッパに波及しEuroSTRATAFORMとしてEUと米国の共同研究計画として実施されています．これらの地層形成研究は，アジアにおいても実施されることが現在企画検討されており，DeltaMAP プロジェクトを核として，計画や組織体制が討議される予定です．

DeltaMAPプロジェクトが対象としている地域はアジア太平洋地域ですが，同プロジェクトには，米国のChuck Nittrouer, James Syvitski, Steve Kuehl, Allen Archer，フランスのSerge Berne，オランダのGeorge Postma，イギリスのJim Best，オーストラリアのColin Woodroffeなど，現在世界の最先端で活躍している研究者が参加しています．プロジェクトの連絡は，基本的にはメールで行われます．登録されれば，関連情報をお流し致しますので，ご希望の方は，産業技術総合研究所　斎藤<yoshiki.saito@aist.go.jp>まで，メールで連絡して下さい．皆さんの参加を歓迎致します．

産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門　斎藤文紀

日本地質学会*News*　6（3）

産業技術総合研究所より，下記のニュース（産総研労組第七分会の機関紙掲載）をご提供いただきましたので会員の皆様にお知らせいたします．

（執行委員会　**立石雅昭**）

==========

EOS（アメリカ地球物理学連合発行のニュースレター）の2月11日号によりますと，アメリカ政府はテロから守るためという理由で，石油やガスのパイプライン，水源地，ダム，有害物質廃棄場などを市販の地図から消去するよう求めているそうです．またUSGS（米国地質調査所）の配布した国内の水資源に関する情報の入ったCDを廃棄するよう全国の図書館に命じたそうです．その他リモートセンシングのデータに関する海外からのアクセスも再検討するそうです．

このようなことが強化されると，たとえばアメリカを訪れる地質屋がこのようなデータの入った地図を所持しているとスパイやテロリストとして捕まる可能性も出てくることでしょう．

以下，上で紹介されているEOSの記事の一部を引用します．

Unimpeded Dissemination of Scientific Research Versus National Security Needs Discussed at Workshop

In the United States, the only mechanism for restricting publication of scientific research results because of national security concerns is classification by federal agencies according to deemed levels of sensitivity. In the wake of heightened fears following the events of 11 September 2001, the U.S. government issued in March 2002 a new classification category, "sensitive but unclassified," which many in the U.S. scientific community consider vague and ill-defined.

The issuance of this new classification category has raised concerns in the scientific community of a potential for unnecessary restrictions on the dissemination of data and other material that emanates from government sponsored research programs.

John Hamre, the president and CEO of the Center for Strategic and International Studies (CSIS), said that making such research results subject to cloistering in this new category will likely provide minuscule improvements to national security, but will have "terrible consequences for the scientific community." Hamre made his statements at a workshop held to discuss issues related to the conflicts between scientific research and national security, sponsored by CSIS and the U. S. National Academies. CSIS is a Washington, D. C.-based, privately funded organization that produces expert studies and opinion on national and international security, trade, and other international issues, and also provides for a for discussion of these same topics.

Most of the scientists who participated in the workshop, including Bruce Alberts, president of the National Academy of Sciences, and Ronald Atlas, president of the American Society for Microbiology, acknowledged a responsibility to safeguard information that could pose a risk to national security if it fell into the wrong hands. However, they repeatedly stressed the need for free and open exchange of information as a critical part of peer-reviewed research.

These same individuals said that restricting the open exchange of the research results will stifle progress in the sciences. They also expressed concern that security-related restrictions on the dissemination of research findings could discourage scientists already doing research, as well as those contemplating scientific research as a profession, because dissemination of findings - especially through the peer-reviewed literature- is the single most critical mechanism for gaining access to recognition, promotion, and funding.

For their part, some of the representatives of U.S. security agencies at the workshop urged scientists to "work with the national security community" to minimize the amount of research classified; for example, by specifying research areas that might potentially carry security risks, and developing "targeted restrictions" as a way to weed out research that is truly not sensitive, and should not be classified.

USGS Restricts Public Access to Water Sources Information

Although the workshop focused specifically on subjects related to the life sciences, such as genomics and bio-warfare, the issues and concerns raised are pertinent to all areas of scientific research.

In the geosciences, for example, "sensitive but unclassified" information such as the location of oil and gas pipelines, reservoirs, and dams, and toxic or hazardous waste sites in the U.S. were removed from publicly available maps.

Last year, security concerns prompted the U.S. Geological Survey to request that librarians around the country destroy CDS distributed by USGS which contained information about water resources in the United States. And in June 2002, President George W. Bush issued National Security Presidential Directive 15 (NSPD-15), calling for review of national space policy, including a review of policy on commercial remote sensing, and on foreign access to remote sensing space capabilities.

AGU's policy statement on the importance of archiving geophysical data calls for the full and open sharing of Earth and space science data, while recognizing that constraints on that practice include national security concerns. The full AGU position statement is available at
http://www.agu.org/sci_soc/policy/datapos.html.

The workshop, Scientific Openness and National Security, took place on 9 January 2003, at the National Academies of Sciences in Washington, D. C.

EMILY CRUM, AGU Staff Writer

委 員 会 だ よ り

☆女性科学者の未来を考える委員会　活動報告書

2002年12月14日の地質学会評議委員会の報告をふまえ，地質学会内の女性科学者の未来を考える委員会メンバーを対象に，大学，研究所，企業にどの位，保育所，保育室，授乳室，授乳所が設置されているか，アンケート調査を行った．そのアンケート結果と，最近の大学および研究機関内における保育や託児施設の動向を報告する．

1．アンケート結果報告

2002年12月に女性科学者の未来を考える委員会メンバーを対象に，大学，研究所，企業の，保育室，託児施設および授乳所設置状況のアンケート調査を行った（別紙）．アンケート結果を基に，現在の保育室，託児施設の現状を考察する．

アンケート回答者　5名

主な回答結果をグラフに示す．

アンケート回答者は大学3名，企業1名，研究所１名・

しかし，どの所属機関にも，現在のところ託児施設が無い結果が得られ，さらに全員から，そのような施設があったら利用したいという回答が得られた．

回答コメントは以下の通りである．

・保育関係の環境は全く整っていない．せめてシッター利用券でも使えるように働きかけたい．

・研究室が個室なので，自分の居室で授乳していた．陰でいろいろ言われないように子供布団などは一切持ち込まなかったが，教室主任の名で「注意」に来た教授もいた．

・小規模な会社だと，保育施設は全くない．

・スタッフの中に女性もいるが，小さな子供がいないので，保育施設については，現在のところ要求項目にあがってこない．しかし，昔は重要な要求項目であった．

・シッターは個人的に依頼する形で，利用可能なキッズルームが欲しい．

以上の結果より，各研究機関および企業における女性科学者に対する社会環境はまだまだ充実しておらず，希望しても要求が通る事は難しいという現状が明らかになった．さらに，女性の多い家政学会においても，学会で保育室設置のような事は行われていないらしく，地質学会期間中，毎回保育室が設置されている事は非常に素晴らしい事である．なお，女性科学者が多く勤務するつくば市筑波産業総合研究所内には保育施設が古くから完備されており，現在も活発な活動が行われている．

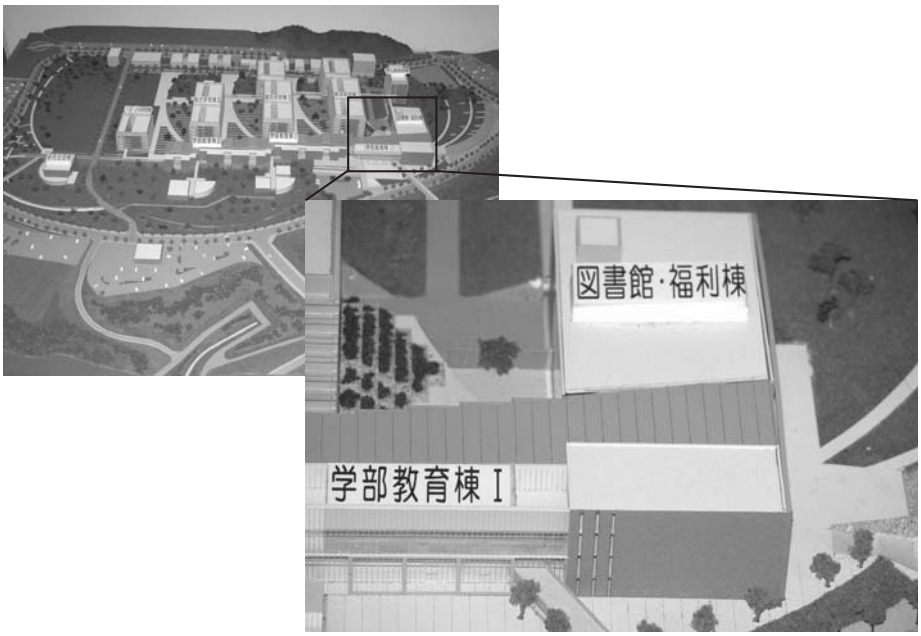
2．最近の大学および研究機関内における保育室，託児施設設置の動向について

最近では，大学や研究機関が保育所や託児施設を学内や関連施設内に作る動きが広がっている．私立大学では今後，増える社会人院生に照準を合わせ，子育て中で大学に通えない人たちを支援する目的で，目白大学や日本女子大学，早稲田大学などが託児ルームを設けている．国立大学でも，お茶の水大学は昨年10月から試験的に保育室を開設し，学部生や院生，主婦の科目履修生らの子供が利用している．また，名古屋大学でも，男女共同参画推進委員会が3年前に発足し，保育施設のアンケートを行ったところ，保育施設が必要という結果を得た．現在，独立法人化した時の「売り」になるとして，検討を進めている．また，広島大学でも職員からの託児所設置の要求を受け，検討中である．さらに，文部科学省では，昨秋から今年にかけて国公立私立大学を対象に託児施設の有無に関する調査を初めて行い，来月にも結果をまとめる予定である．

このように，大学や研究機関が社会人を含め，学生の利用を視野に入れた女性の研究環境の改善に取り組みを始めた事は，新しい動きである．出産，子育てのために退学，退職する女性が多いが，子育てが女性科学者の研究，教育の足かせにならない時代の実現のため，所属機関の研究環境作りの必要性を改めて強調していきたい．

3．授乳質の設置（金沢大学）

金沢大学では，文部科学省の霞ヶ関保育所にならって，キャンパス研究科棟の保健管理センター内に，職員，学生，院生が使用できる授乳室が設置される．また，大学の中期目標の中には，保育所設置を目指すことを入れた．金沢大学の施設が，これから保育施設を目指す他の研究機関の前例となるよう，今後，内装や運営の面でも努力していきたいと考えている．



写真：金沢大学研究科棟完成模型
福利棟の一角の保健管理センター内に授乳室が設置される．

2002年12月14日　評議委員会報告

1.　新潟大学での地質学会も成功裏におえ，女性科学者，女性学生，院生の発表が多く頼もしい限りです．また，この度も，保育室の設置により，多くの研究者が安心して学会に参加でき喜ばれました．また，子供達も水族館の見学など新しい試みで，楽しく過ごすことが出来ました．藤林会員はじめ新潟大学関係者にお礼申し上げます．

2.　学会会期中に開催されたランチョンにも海外からの参加者を含め，男女20名以上の参加があり，話がはずみました．地質コンサルタントの方からの提案でメールのネットワークを作り，情報交換をすることになりました．この時の様子はニュース誌の昨年11月号に掲載されています．

3.　文部科学省の霞ヶ関保育所にならって，金沢大学角間キャンパス（山の上にあります）の研究科棟の中に，授乳室をつくらせることに成功しました．職員のみならず，院生や留学生も使えるのです．大学の中期目標の中に，保育所を設置する旨もいれてあります．11月22日には全国の保育所会議が名古屋で開催されました．今後，大学，研究所，企業の中に保育所を設置する運動を広げていきたいと思います．

4.　次回の地質学会は静岡大学です．保育室の方，宜しくお願い致します．

5.　来年の地球惑星合同学会は幕張メッセで行われます．諸費がオリンピック村と比較し，高くなりますが，保育室使用料についての補助金のお願いと使用者負担金の据え置きをお願い致します．
代表　田崎和江　（金沢大学）

―――　アンケートのお願い　―――

さて，評議員会報告3.に述べたように，大学・研究所・企業にどの位，保育所，保育室，授乳室，授乳所が設置されているかどうか，アンケートをとって調査することになりましたので，ご協力下さい．（転送可）FAXまたはメールで事務局　FAX03-5823-1156　メール main@geosociety.jp

①　アンケート回答者名
（　　）
②　アンケート解答者所属
（　　）
③　あなたの所属機関にあるものを，選択してください．（複数回答可）
（　　）
1. 保育所　2. 保育室　3. 授乳室　4. 授乳所　5. なし
④　上記の施設についてお答えください．（複数回答可）
（　　）
1.　公立　　2.　私立　　3.　業者委託　　4.　無認可
5.　認可　　6.　組合（生協）方式
⑤　規模
（　　）
1.　定員（　　）名　　2.　定員規定なし
⑥　使用状況
（　　）
1.　使用している　　2.　使用したことがある
3.　使用したことは無い　　4.　あったら使用したい
5.　なくても不便を感じない　6.　このような施設は不要
⑦　その施設は勤務先に近いですか．遠いですか．
1.　歩いて（　　）分　2.　車で（　　）分
⑧　その施設にはすぐに入所出来ますか．待つ必要がありますか．
（　　）
1.　すぐに利用出来る　　2.　待つ必要がある(　　)分
⑨　料金はどの位ですか．
（　　）
⑩　その施設に希望する事項，または備品など
（　　）

☆関東支部 報告

1．関東支部活動報告―シンポジウム「関東地方の地質」

平成15年2月1日12：00〜16：30に北とぴあで上記シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは，支部活動の一環としての地方地質誌編纂に関わる催しで，同編集委員会と共催の形で行われました。当日は，約100部用意した要旨集が2，3部しか残らないほどの盛況で，写真にあるように多くの立ち見者をだしてしまうほどでした。主催者側としてはうれしい誤算でしたが，出席者にはご迷惑をおかけしたことを本欄を借りてお詫びして申し上げます。

シンポジウムは，佐藤　正（筑波大名誉教授・地方地質誌「関東地方」編集委員会委員長）の挨拶に始まり，以下のプログラムで進められました。

内容：　久田健一郎「関東山地の秩父累帯研究の新展開」
堀　常東「八溝山地付加重合体の構造層序」
天野一男「南部フォッサマグナ多重衝突テクトニクス―従来の研究総括と将来展望」
高橋雅紀「N8層とpostN8層に二分される関東地域の新第三系―庭谷不整合のテクトニクス」
笠原敬司・林　広樹「関東平野下に伏在する新第三系の偏在からみた基盤構造」
長谷川　功「物理探査から知ることのできる関東平野の基盤構造」
中里裕臣「関東平野の第四系とテフラクロノロジー」
遠藤　毅・中山俊雄「首都圏における沖積層と土木地質」

いずれも聞きごたえのある内容で，中には本シンポジウムではじめて紹介されるものもあり，参加者も熱心に聴講され，成功裏に終

えることができました。講演者の方はもとより，関東支部賛助会員の方々及び関係者のご協力に篤く謝意を表する次第です。

2．関東支部平成15年度上半期活動予告

2.1　関東支部総会及び一般向け講演会「関東地方の今と昔を探る」（仮題）

5月17日（土）に北とぴあで，開催します。今年は関東大地震80周年にあたり，社会の関心も高いものがあり，上記関東地方の地質のレビューと地震関連の2つの講演を企画しています。

2.2　秩父巡検

日本地質学発祥の地でもある秩父-長瀞地域を最新の知見をもとに現地で紹介しようとするもので，6月初旬の週末を利用して一泊二日の計画です。

いずれも詳細は追って本欄及びホームページで紹介していきます。奮ってご参加ください。

（関東支部長　加藤碩一）

☆中部支部 案内

2003年支部総会開催のご案内

中部支部では下記のとおり2003年支部総会を開催します。あわせてシンポジウムと地質巡検を計画しましたので，皆様是非ご参加ください。

記

日時：**2003年6月14日（土）受付9：30 -**
会場：岐阜大学共通教育棟102番教室。岐阜大学への交通，キャンパスマップについては岐阜大学ホームページ（http://www.gifu-u.ac.jp/）を参照してください。
総会：10：00 - 11：30
シンポジウム：12：00 - 17：00　**「飛騨外縁帯研究の進展と展望」**

本シンポジウムでは，主として以下の３点について議論する予定です。

（1）飛騨外縁帯の実体は何か

飛騨外縁帯とはいったい何をさすのか，その定義は研究者によって若干の違いがみられる。また，西南日本内帯のどのような構成要素が含まれているのか，他地域では見られない特徴的な地質ユニットが存在するのか，あるいは東アジアを含む他地域との連続性・関係はどうなっているのかなどを議論する。

（2）飛騨外縁帯の構造発達史モデルの検討

上記議論をふまえた上で，飛騨外縁帯の構造発達史モデルを，地質学的・古生物学的・岩石学的・年代学的観点から検討する。近年，飛騨外縁帯を東アジア縁辺部の横ずれ剪断帯と考えるモデルが提唱されているが，その妥当性はどの程度あるのか，また，他のモデルや飛騨ナップモデル等との関連はどうなのか，視野を東アジア全体に広げた際の整合性などについても検討したい。

（3）飛騨外縁帯研究の展望

飛騨外縁帯を研究する上で，今後，何を目的に，どの地域を，どのような手法で研究すべきか，個々の研究者の独断も含めて活発な議論を期待する。

参加費（総会・シンポジウム）：1,000円
懇親会：18：00 - 20：00（場所：岐阜大学内，会費：4,000円を予定）

参加申し込み：総会・シンポジウムと懇親会の参加は当日まで受け付けますが，準備の都合がありますので，できる限り5月15日（水）までに参加内容（総会・シンポジウム，懇親会の別）連絡先（E-mailが望ましい）を明記して，E-mail，FAXまたははがきにてお申し込みください。

E-mail：skojima@cc.gifu-u.ac.jp
FAX: 058-293-3084
はがき：〒501-1193　岐阜市柳戸1-1
岐阜大学工学部社会基盤工学科　小嶋　智

研究室紹介

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 地質学鉱物学教室地層学講座増田研究室

田村　亨（D2）

京都大学地質学鉱物学教室の増田富士雄研究室では，堆積作用から堆積相，シーケンス層序と，様々なオーダーで見られる地層のでき方を総合的に研究しています．地層は地質時代の地球表層の状況を示す最も重要な情報源であり，そのような情報を引きだすための基礎的な研究分野を担っているといえます．

増田研究室の学生は，博士課程3名，修士課程6名，4回生2名の11名で，担当教官である増田富士雄教授の指導のもと，日々研究に励んでいます．地層の多様性を包括するべく，それぞれの研究テーマは多岐にわたっていて，互いに重複したりすることはほとんどありません．そのため，同じ大学にいながらにして，ゼミやそれぞれが対象とするフィールドへの巡検に参加するだけで，かなり広い範囲の知識を得ることができます．

学生の研究スタイルも，それぞれの性格や個性にともなって多岐にわたり，一般的な野外調査のスタイルをとるものから，中には野外にほとんど出ず，日々実験に勤しむものや文献の山にかじりつくもの，ボーリングコアの山に取り組むものなど様々です．これは他の大学の地層や層序の研究室とはかなり異なっている点でしょう．

それではみなさんに増田研の学生を紹介させていただきます．

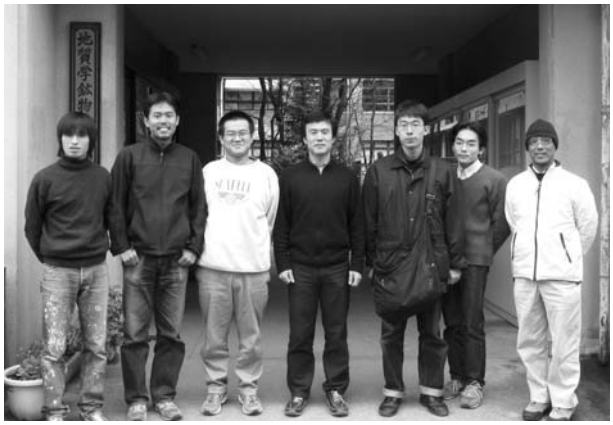
荒谷　忠（博士課程2年）：デューンやリップルといった，河床や海底に発達する微地形であるベッドフォームを文献調査や実験によって研究し，それらによって作られる堆積構造の根本的な理解を目指しています．彼のレビューは正確無比・包括的で，才能を感じさせます．

田村　亨（博士課程2年）：九十九里浜，仙台平野といった，海岸平野の地下に発達する地層の，ボーリングコア，14C年代，粒度分析にもとづいた研究が専門です．最近では粒度分析の新しい解析法を得たと自分では思っています．そのほかにも，土石流堆積物，タービダイトやファンデルタ堆積物などに関して，複数のフィールドと研究テーマをもっています．

小出雅文（博士課程1年）：主に海浜堆積物に見られる生痕化石，Macaronichnus segregatisを研究しています．地層だけにとどまらず，現世の海岸での調査もこなし，様々な方向からのアプローチによって，この生痕化石の本質的な理解や，環境指標としての有効性を高めることを目指しています．修論では中生代の堆積シーケンスの研究をしていたというオールラウンドプレーヤー．

高川智博（修士課程1年）：粒子個別要素法によるシミュレーションから，多数の堆積物粒子が衝突などにより相互に干渉しあって運動する現象に取り組んでいます．このような現象は実際の堆積過程において最も根本的な部分といえます．修士1年にしてすでに，粒子流の堆積物に見られる逆級化（粒子が上に向かって粗くなる構造），粒子配列などの成因についていくつかの成果を上げています．卒業論文ではネパール・カトマンズ盆地の更新統の調査もこなした国際派．

研究室メンバー　左から、



齋藤　有（修士課程1年）：沖縄県西表島の中新統八重山層群西表層の層序，砂岩組成，堆積相の研究をしています．西表層の形成場，後背地や，これらから推定される島弧形成のメカニズムなどについて，新しい成果を上げつつあります．砂岩組成から，堆積物を構成する物質と，供給源やテクトニクス，シーケンス層序との相関をテーマに，さらなる研究を続けています．

松本　弾（修士課程1年）：和歌山県中新統田辺層群白浜層に残された津波堆積物についての研究を行っています．現在までの調査で，白浜層は全体がファンデルタシステムで堆積した浅海堆積物から構成されることが分かっています．層序や堆積相などをもとにした堆積環境の推定により，形成プロセスや保存プロセスといった，津波堆積物の堆積メカニズムをより詳細に復元することを目指しています．

小林博文（修士課程1年）：能登半島の中心統縄又層を，堆積相解析と新しい小断層解析法である多重逆解法を用いて研究しています．多重逆解法の創始者である山路　敦助教授の指導も受けています．日本海の海岸沿いの露頭を対象にすることから，調査中に何度も職務質問を受けながらも，見事に地質図を書き上げました．現在，日本海拡大についての重要な制約条件と考えられる，縄又層の地史や応力場を明らかにしつつあります．

佐藤洋介（修士課程1年）：増田研の誇る巨大造波水槽を駆使して，粒度や波の強さなどの様々な条件下でできる波浪堆積構造の研究をしています．水槽が大きいだけに，実験もかなり大掛かりになります．中でも砂を大量に上から降らせる実験では，合計数百kgもの砂袋を大勢で運び，人力で降砂量を制御するため，10名近い人出を要します．たまに失敗があるのもご愛嬌．

春田泰宏（修士課程1年）：富士山麓の大沢扇状地で最近発生した土石流の堆積物の研究をしています．土石流堆積物の成層構造や粒子配列と，実際の流れとの間にある因果関係を探っています．増田研において社会貢献するポテンシャルが最も高い人といえます．冗談だとは思いますが，実際の土石流を見れるなら，巻き込まれても本望だそうです．

佐藤智之（4回生）：地質時代の潮汐堆積物から，当時の潮汐パターンを復元することを目的とした研究をしています．卒業論文では，北九州漸新統芦屋層群を中心に調査しました．潮汐パターン復元のための問題点，砂干潟堆積物の保存性，堆積様式などについて，4回生ばなれした深い考察をしています．わが増田研の新星．

西尾　健（4回生）：卒業論文で，現在の黒潮に見られる流速の周期と，更新世の黒潮堆積物の構造の周期性とを対応づけて，地層形成の絶対時間を復元するという独創的な研究をしました．ソフトボ

ール部では4番・キャプテンを務め，体力，知力，勝負強さともに抜群で，実験の時などには大活躍でした．彼が就職のため卒業とともに増田研を去ってしまうことは，私たちにとって大きな損失です．

このように私たちの研究は多様でありながら，地層に関してのより根本的，基礎的な理解を目指していることが共通しています．このことがわが増田研究室のオリジナリティであるといえます．ゼミは毎週火曜日の午前に開かれていて，各種文献の輪読や，各自の研究発表を行っています．他大学でも遠慮はいりませんので，興味をもたれる方はぜひ一度お立ちよりください．お問い合わせは田村亨（**e-mail: tamu@kueps.kyoto-u.ac.jp**）までお願いします．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の２名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

naruse@kueps.kyoto-u.ac.jp　成瀬　元（京大）
tomaru@gbs.eps.s.u-tokyo.ac.jp　戸丸　仁（東大）

（金融機関・郵便局用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社 （旧株式会社三井ファイナンスサービス）	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

民間金融機関または郵便局のうちどちらか一つをご指定ください。

民間金融機関用 捨印

民間金融機関

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合	本店 支店 出張所			1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

郵便局

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、郵便局へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	郵便局お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか お通帳でご確認ください

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード 0 0 0 0 0	

－預金口座振替規定－　※郵便局払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱局　受付日時　印

（民間金融機関・郵便局へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱　〒160-8440
東京都新宿区新宿 2-16-6　03-5362-2856

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キ　リ　ト　リ　線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キ　リ　ト　リ　線

裏面のりしろ②

研究室のミニ工場

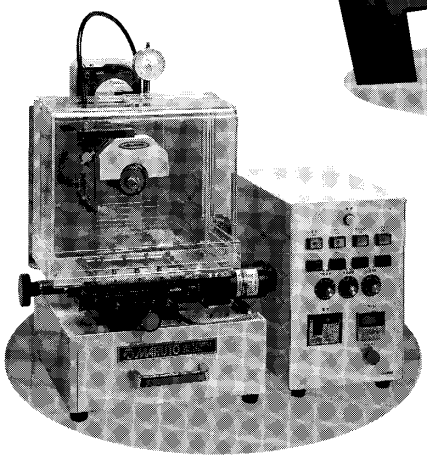
マルトーの ラボ・ファクトリープラン 3点セット

分析・検査用試料作製機器
〈切断・研削・研磨〉

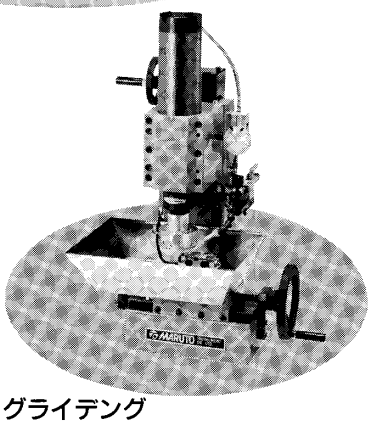
小さな機械(なり)だが役に立つ

小型 精密 操作簡単 低価格

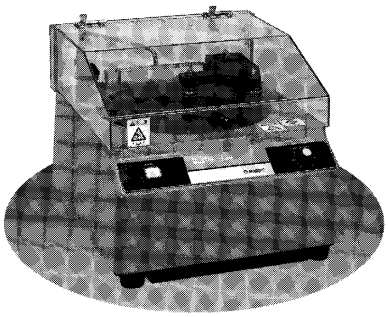
3機種揃えば、各種試料の精密加工が可能です。
(ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工)



カッティング
連続・浅切込みができる
ステップカッター
〔MC-170Y〕
- 試料へのダメージが少ない
- 最小切込み量 10μm／pass
- 最大加工能力 H25×L40mm
- 設置面積 W550×L450mm
- 本体価格 185万円～



グライデング
立軸平面研削機
プレパラップ
〔MG-300〕
- 最小切込量は、0.01mm目盛
- 加工サイズは、MAXφ50mm
- 任意研削面の逐次観察が可能
- 研削・研磨、同一治具使用により、研削・研磨工程は簡単で高精度
- 設置面積 W560×L380×H640mm
- 本体価格 98万円～



ポリッシング
精密鏡面研磨機
ドクターラップ
〔ML-180〕
- 組織検査用試料のラッピング・ポリシング
- アクセサリー豊富
- 研磨試料サイズ φ1～φ100mm
- 設置面積 W400×L400mm
- 本体価格 45万円～

☆貴重な試料を無駄なく手軽に加工したい、各種カタログあります。開放実験室でテスト加工が可能です。

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

株式会社マルトー
本　社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10
☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル
☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288
E-mail:maruto@maruto.com http://www.maruto.com

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp